

INAHO FARM 通信 2024年12月

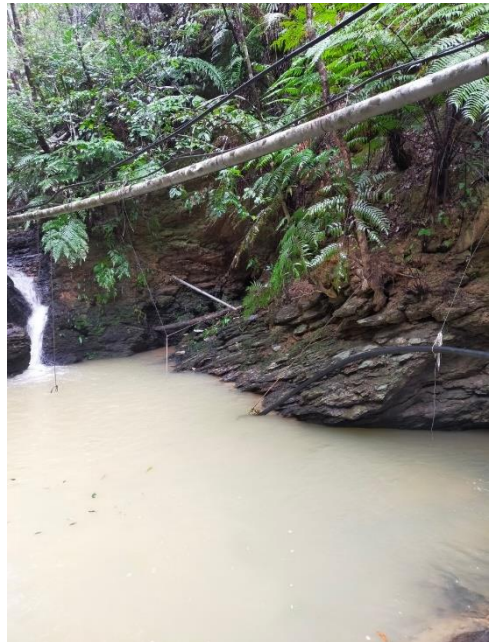
師走に入りましたね、ようやく冬の気候になってきました。牛たちにとってはとても過ごしやすそうです。11月いっぱい、なんとか自給の青草のみで賄ってきましたが、そろそろ草の生育量が落ちてきているため、足りない分を補助的に輸入乾草で代用し始めようと思っています。とりあえずビール粕の給与は無しで据え置き、草のみのグラスフェッドは続けてみるつもりです。

<2024/12/1 現在の飼養頭数>

- ジャージー種 11頭：
 - 搾乳牛 5頭（アイナ、アユ、アコ、デイゴ、シュギモー）
 - 乾乳牛 3頭（チッチ、エマ、リンリン）
 - 育成牛 2頭（伊予、ベル）
 - 雄子牛 1頭（大福）
- 交雑種（ジャージー種×黒毛和種）4頭：
 - （ココア、ホセ、バンシルー、シュリ）

・記録的大雨の被害

11/10 にかけての豪雨の影響で、沖縄県北部は大変な被害が出ました。近くの道路が土砂崩れや道路陥没で通行止めになるなど、生活の便に影響が出ました。牛たちは全く問題なく、牧場内でも大きな被害は見られず安心していましたが、雨が落ちてから取水池へ行き確認をすると、ポンプが水を吸い上げられていません。どうやら大雨による増水の勢いで取水口のホースの締め付けが緩くなって機能しなくなっていたようです。自分たちで水をひいてきて貯水槽に貯めて生活水としているので、年に何回かやってくるこのような水トラブルも、基本的には自分たちで対応しなくてはならないのが大変なところ。男2人、この時期水温もかなり低くなっている取水池に首まで浸かってなんとかかんとかポンプを引き揚げ、修理を施し、無事に断水の危機ギリギリのところで復活することができました。寒いだけでなく、なかなか危険の伴う作業だったので、とりあえず大きな怪我なく終えられたことが何よりです。



一番困っていた県道14号線の通行止めも、道路が陥没していたので相当長引くかと思っていましたが、月末には通行できるようになりました。復旧に向け尽力いただいた皆様、有難うございました。

INAHO FARM 通信 2024年12月

・アユ、卵胞囊腫！？

今年の夏は、これまでになく種付け成績が悪く、なかなか1回で妊娠させることができませんでした。最初のうちは8月の種付けだから、真夏の暑熱ストレスもあるだろうから仕方ないかな、くらいにしか捉えていませんでした。ですが今回アユに種付けをしてもらおうとしたら、授精師さんから「卵胞囊腫みたいだ」と言われ、ベルの除角麻酔以来今年2回目の獣医さん往診をお願いしました。そもそもまず獣医さんと呼ぶことがほとんどないということが酪農家として珍しく、改めて今までどれだけ病気と無縁だったかがわかります。一般的に囊腫になる原因とされる事項はうちの飼養管理上では全く当てはまらなかったもので、原因がわからずショックな部分もありましたが、「こうして放牧で草のみで健康に飼っていても、なるときはなるし、今回の囊腫は特に問題もなく排卵促進剤を打ってすぐ治ったし気にしないで大丈夫ですよ〜」という獣医さんからの言葉に一安心。治療後順調に発情が来て、種付けをしてもらいました。ちゃんと妊娠してくれたかな。

・シュギモーが初めてのお産を無事に終えました



11/27、予定日より1日早く、2歳になったシュギモーが初めてのお産をしました。朝放牧地に迎えに行くついでに鼻先が出ている状態だったので、そこからじっくり見届けることができました。あと一息のところでも手を貸したい気持ちを抑えて、自然分娩に任せました。助産は万が一の事故の危険性があるときだけ。当然ですが、牛はちゃんと自分たちだけでお産ができる能力を備えています。

お産の時にも、声掛けをととても大事にしています。どうしても仔牛にばかり気を取られがちですが、初めてのお産だし、仔牛は連れていかれてしまうし、精神的に不安定になりやすいのはどちらかということお母さんの方。お産直後には、必ず「お疲れ様、よく頑張ったね」とまずはねぎらいの言葉をかけ、しっかりスキンシップをとります。母牛は仔牛を探し数日間鳴き続けますが、そんな時にも我々は、「離しちゃってごめんね、仔牛は元気だよ大丈夫だよ、ちゃんと面倒見てるからみんなで一緒に育てようね、だからミルクたくさん出してね」なんて風に声をかけています。言葉で会話はできなくとも、ちゃんと言霊は伝わっているからです。こんな風にして牛との関係性を構築していきますが、ちゃんと命と向き合って相手に敬意を持って接していれば、経験の浅い深いに関わらず誰でも関係性構築はできるはずだと思います。そしてシュギモーは驚くほどすんなりと搾乳場まで入ってきてくれ、搾乳も嫌がることなくすんなりと受け入れてくれました。初めての搾乳でここまで大人しい牛はとても珍しいです。

雄仔牛の名前は、母親のシュギモー、祖母リンリンの名前を取って、沖縄らしく「シュリ」と名付けました。ミルクを飲むのも上手で、早くも我々にとても懐いてくれています。

INAHO FARM 通信 2024年12月

・採草地の状況

10月中頃に播種した採草地ですが、順調に成長してきているところもあれば、やはり危惧していたように日当たりや水はけが悪い区画は発芽率も成長も悪く何とも言えない途中経過です。良く育っている箇所は、年内には早くも青刈りを始められるかもしれません。多くはないですが、年々少しずつ自給の採草エリアが広がっていくのは嬉しいですね。



・24か月齢雌ジャージー牛ウィッシュとお別れしました。



11/8、2年間を共にしてきたウィッシュを屠畜しました。お母さんのクンに似てとても愛らしく、また人馴れしていてこれまでふれあい体験ではたくさんのお客さんに癒しを与えてくれたという点で、大活躍してくれました。本来であれば出産してもらってお乳を搾るところなのですが、母牛クンはとても体が小さく乳量も少なく、その血統を継ぐウィッシュも、やはり小柄で乳量が期待できないため、悩みに悩んでここまで引き延ばしてきましたが、ここで屠畜する決断をしました。乳量を追い求めないのが我々のスタイルではありますが、放牧地の面積・草量に対して適切な頭数のバランスを維持するためには、毎年仔牛を産ませる中で淘汰の決断に迫られます。その中でもどうしても、経済的な面で淘汰する優先順位を決めなくてはなりません。同じ量の餌を食べていても、母牛クンは他の牛の半分くらいの乳量しか搾ることができませんでした。こういう決断をしなくてはならないのが、酪農家です。ただ、かといって命を軽視

しているわけではありません。だからこそ、一つ一つの命に敬意を払って向き合っているつもりです。

ウィッシュのお肉は、適度な脂もあり牛肉らしい深い味わいのある、とっても美味しいグラスフェッドビーフです。今回ホルモンは那覇の焼肉「疾風ホルモン」さんへ、お肉は那覇の「島 cuisine あーすん」さんにもお届けすることができました。一部数が限られますが、今帰仁のUSINOIBUKUROさんに委託して食べやすくカットしてもらった冷凍パック肉もオンラインショップにてお買い求めいただけます。

INAHO FARM 通信 2024 年 12 月

・12/15 に牧場でイベントを行います

12/15（日）は、久々に牧場でお食事会のイベントを開催します。今回も、信頼する料理人の角谷健シェフをお招きしてのお食事会となります。うちのグラスフェッドミルクを主役としたスイーツコースを召し上がっていただくお昼の部と、ミルクとウィッシュのグラスフェッドビーフをメインとした夜の部の二部制で各回 8 名の限定となります。お食事の前には 1 時間ほど、放牧地の中で牛との触れ合いや我々の取組・考え方についてご説明するツアーの時間も設けております。牧場が主催してこのような料理を提供するイベントはなかなか無いものですので、ぜひとも気になっている方はこの機会にご予約お待ちしております。少人数制ですので、ご来場の皆様と様々なお話ができることを楽しみにしております。

・コス 75 に島ヨーグルトが入りました！

名護にあるコストコ再販店コス 75 さんにて、島ヨーグルトのお取り扱いが始まりました。おかげさまで大好評をいただいている島ヨーグルト、地元の方がアクセスしやすいお店に置かせていただくことができ嬉しいです。あくまでも基本は地域に根差した酪農家でありたいと思っています。

新規お取り扱いや、業務用ヨーグルトなどお問合せもお待ちしております。

（文・佐藤貴之）